# ゼミノート #10

# Topology and Shaves on Algebraic Stacks

# 七条彰紀

## 2019年9月10日

# 目次

1 Points of Artin Stack 1 2 Topology on  $|\mathcal{X}|$ 4 2.1 4 2.2 2.3 Sheaves on Algebraic Stacks 7 3.1 3.2 

ここまでで artin stack が定義できたが、これは scheme で言えば structure sheaf だけ定義したような状態である. artin stack の Zariski 位相空間と、(Grothendieck topology 上の) sheaf を導入する.

# 1 Points of Artin Stack

いずれも [3] Tag 04XE, [2] section 5. を参照せよ.

# 定義 **1.1** ([2] section 5)

体の Spec からの射  $x_1$ : Spec  $k_1 \to \mathcal{X}, x_2$ : Spec  $k_2 \to \mathcal{X}$  について  $x_1 \sim x_2$  であるとは,ある  $k_{12}$  :: field と以下の 2-可換図式が存在すること.

$$Spec k_{12} \longrightarrow Spec k$$

$$\downarrow \qquad \qquad \downarrow^{x_1}$$

$$Spec k_2 \longrightarrow \mathcal{X}$$

# 命題 1.2 ([3] 04XF)

ここで定義した~は同値関係である.

(証明). ~ は反射律,対称律を満たすことは自明なので,推移律の成立を示す.

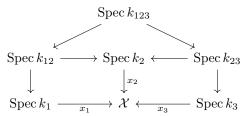
体から  $\mathcal{X}$  への 3 つの射 ::  $x_1, x_2, x_3$  を考える.これらが  $x_1 \sim x_2, x_2 \sim x_3$  を同時に満たすとは,体  $k_{12}, k_{23}$  と次の 2-可換図式が存在するということである.

$$\operatorname{Spec} k_{12} \longrightarrow \operatorname{Spec} k_2 \longleftarrow \operatorname{Spec} k_{23}$$

$$\downarrow \qquad \qquad \downarrow^{x_2} \qquad \qquad \downarrow$$

$$\operatorname{Spec} k_1 \longrightarrow \mathcal{X} \longleftarrow \xrightarrow{x_3} \operatorname{Spec} k_3$$

この時, $k_{12}$ ,  $k_{23}$  の合成体(すなわち最小の共通の拡大体)を  $k_{123}$  とする. $k_{12} \cap k_{23}$  は  $k_{123}$  の部分体として  $k_2$  に一致する(あるいは,一致するように 2 つの準同型  $k_{12}$ ,  $k_{23} \to k_{123}$  を選ぶ).すると可換図式は次のように拡張される.



上の新たな四辺形は scheme の図式として可換なので、この artin stack の拡張後の図式も可換.

#### 注意 1.3

以上の定義は scheme の点に対応している. scheme :: X について,体の Spec :: Spec k から X への射は点  $x \in X$  と体の準同型 ::  $\phi: \kappa(x) \to k$  に対応する ( [1] ch II, Ex2.7, [3] 01J5). ここで  $\kappa(x)$  は residue field である. したがって一点 x に対応する射は  $\kappa(x)$  から体への準同型の数だけ有る. これらを全て同値なものとする同値関係を定めたい.

体から X への二つの射

$$x_1: \operatorname{Spec} k_1 \to \mathcal{X}, \quad x_2: \operatorname{Spec} k_2 \to \mathcal{X}$$

について,以下は同値.

- (a) 位相空間の 2 つの写像  $|x_1|, |x_2|$  の像が x である.
- (b) すなわち、体  $k_{12}$  と次の可換図式が存在する.

(a)  $\Longrightarrow$  (b) は明らか. (a)  $\Longleftrightarrow$  (b) は次のように示す。まず  $k_{12}$  は合成体  $k_1k_2$  と置けば良い。すると包含射  $k_1 \hookrightarrow k_{12}, k_2 \hookrightarrow k_{12}$  が存在する。体の準同型は単射しか無いから, $x_1, x_2$  からそれぞれ得られる  $\kappa(x) \to k_1, \kappa(x) \to k_2$  は包含射に取り替えられる。包含関係は推移律を満たすから,以下が可換ということに成る。

$$k_{12} \longleftrightarrow k_1$$

$$\uparrow \qquad \qquad \uparrow$$

$$k_2 \longleftrightarrow \kappa(x)$$

上で述べた、体から X への射と  $\kappa(x)$  から体への射の対応より、これは (b) の可換図式が存在することを意味する.

定義 1.4 ( $|\mathcal{X}|$ , |f|, [3] 04XG and the below paragraph)

points of  $\mathcal{X}$  とは、field の Spec から  $\mathcal{X}$  の射の、 $\sim$  による同値類のことである。set of points of  $\mathcal{X}$  を  $|\mathcal{X}|$  と表す。すなわち、

$$|\mathcal{X}| = \{ \operatorname{Spec} k \to \mathcal{X} \mid k :: \text{ algebraically closed field } \} / \sim.$$

射  $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$  について, |f| を次で定義する.

$$|f| \colon |\mathcal{X}| \to |\mathcal{Y}|$$

$$x \mapsto f \circ x$$

## 定義 1.5 ([3] 0EMW)

X:: algebraic space over a scheme S とする. 点  $x \in |X|$  の residue field とは, x を代表する monomorphism :: Spec  $k \to X$  が存在するような体 k のことである.

#### 注意 1.6

residue field は常に存在するとは限らない. "descent algebraic space"と呼ばれる重要な種類の algebraic space では、任意の点が residue field をもつ.

#### 補題 1.7

X:: algebraic space over a scheme S とする. 点  $x \in |X|$  をとり,

- x を代表する monomorphism ::  $\phi$ : Spec  $k \to X$  と
- x を代表する任意の射 ::  $\psi$ : Spec  $l \to X$

をとる. この時  $\psi$  は  $\phi$  を通じて一意に分解する.

(証明). fiber product ::  $Y = (\operatorname{Spec} k) \times_{\phi, X, \psi} (\operatorname{Spec} l)$  をとる.  $\phi, \psi$  が同値であるから, Y は空でない. mono は pullback で保たれるから  $Y \to \operatorname{Spec} l$  も mono. よって [3] 03DP  $^{\dagger 1}$  から  $Y \cong \operatorname{Spec} l$ .

$$\begin{array}{ccc} Y & \longrightarrow & \operatorname{Spec} k \\ & & \downarrow^{\phi} \\ \operatorname{Spec} l & \longrightarrow_{\psi} & X \end{array}$$

こうして  $\psi$  の  $\phi$  を通じた分解が存在する.  $\phi$  が mono なのでこの分解は一意.

#### 系 1.8

X :: algebraic space over a scheme S とする. 点  $x \in |X|$  を代表する monomorphism は高々一つ.

 $<sup>^{\</sup>dagger 1}$  証明を簡単にまとめると次のように成る. (1) 可換代数の命題「体から代数への全射準同型  $\phi\colon k\to R$  は同型(特に単射)」に帰着させる. (2)  $R\to R\otimes_k R; r\mapsto r\otimes 1$  は, $\tilde{r}\in\phi^{-1}(r)$  について  $r\otimes 1=\tilde{r}(1\otimes 1)$  なので単射. (3) R は体上の代数なので free,特に faithfully flat k-module.

# 2 Topology on $|\mathcal{X}|$

## 2.1 Atlases of Artin Stacks

下準備として artin stack の atlas について幾つか命題を述べる. 最初は読み飛ばして構わない.

### 補題 2.1

任意の artin stack は atlas by a scheme, すなわち scheme からの smooth surjective 射を持つ.

(証明). この証明では "smooth surjective"を "sm.surj.", "etale surjective"を "et.surj."と略す. artin stack と algebraic space の定義より,

- algebraic space から artin stack への sm.surj. 射 ::  $\alpha$ :  $X \to \mathcal{X}$ ,
- scheme から algebraic space への et.surj. 射 ::  $a: U \to X$

が存在する. 合成すれば scheme から artin stack への sm.surj. 射 ::  $\alpha \circ a$ :  $U \to \mathcal{X}$  が得られる.

 $\alpha$  と a ではそれぞれ "smooth surjective","etale surjective"の定義の方法が異なるので,射  $\alpha \circ a$  が sm.surj. であることは調べる必要が有る. scheme からの sm.surj. 射 ::  $V \to \mathcal{X}$  をとり,以下の pullback 図 式を考える.

$$\begin{array}{ccc} U \times_{\mathcal{X}} V & \longrightarrow & U \\ \downarrow & & \downarrow^{a} \\ X \times_{\mathcal{X}} V & \longrightarrow & X \\ \downarrow & & \downarrow^{\alpha} \\ V & \longrightarrow & \mathcal{X} \end{array}$$

この図式から次の3つが分かる.

- $V \to \mathcal{X}$  は scheme からの sm. surj. 射,
- $a: U \to X$  が sm. surj. なので  $U \times V \to X \times V$  も sm. surj.,
- $\alpha: X \to \mathcal{X}$  も sm. surj. 射.

artin stack の射の性質の定義( $\alpha$  が sm. surj. であることの定義)から, $U \times V \to X \times V \to V$  は sm. surj. two pullback lemma も合わせて考えれば,これは  $\alpha \circ a$  :: sm. surj. を意味する.

# 補題 **2.2** ([3] tag 04T1)

artin stack ::  $\mathcal{X},\mathcal{Y}$  と  $\mathcal{Y}$  の atlas ::  $V \to \mathcal{Y}$  をとる. morphism of artin stacks ::  $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$  に対して、 $\mathcal{X}$  の atlas ::  $U \to \mathcal{X}$  と atlas の間の射 ::  $\bar{f}: U \to V$  が存在し、以下が可換図式となる.

$$\begin{array}{ccc}
\exists U & \xrightarrow{\exists \bar{f}} & \forall V \\
\downarrow & & \downarrow \\
\mathcal{X} & \xrightarrow{\forall_f} & \mathcal{Y}
\end{array}$$

scheme の射の性質 P を, smooth surjective morphism による composition と base change で保たれるも

のとする.  $^{\dagger 2}$  f が性質 P を持つならば  $\bar{f}$  も性質 P を持つ.

(証明). atlas of  $\mathcal{X} :: U \to \mathcal{X}$  を適当にとり、次の fiber product をとる.

$$\begin{array}{cccc} U \times_{\mathcal{Y}} V & \longrightarrow & V \\ \downarrow & & \downarrow \\ U & \longrightarrow & \mathcal{X} & \xrightarrow{f} & \mathcal{Y} \end{array}$$

artin stack の定義から  $U \times_{\mathcal{Y}} V$  :: alg. sp. である. また smooth, surjective は stable under base change/composition なので  $U \times_{\mathcal{Y}} V \to U \to \mathcal{X}$  は smooth surjective. よって  $\bar{V} = U \times_{\mathcal{Y}} V, \bar{f} = \mathrm{pr}$ :  $U \times_{\mathcal{Y}} V \to V$  と置けばこれらが主張の条件を満たす. また,この証明から最後の段落の主張は明らかである.

#### 2.2 Definitions.

定義 2.3 (Zariski Topology on Points of Scheme/Algebraic Space/Artin Stack)

- (i) scheme :: X とする、|X| の (Zariski) open subset とは、ある open subscheme of X ::  $i:U\to X$  に よって |i|(|U|) とかける集合のこと、
- (ii) algebraic space ::  $X \succeq \cup$ ,  $A \not h$  scheme  $\mathcal{C} \mathcal{B} \mathcal{S}$  atlas ::  $a: A \to X \not E \succeq \mathcal{S}$ .  $U \subseteq |X| \not h$  (Zariski) open subset  $\mathcal{C} \mathcal{B} \mathcal{S} \succeq \mathcal{C}$ ,  $|a|^{-1}(U) \not h |A| \mathcal{O}$  open subset  $\mathcal{C} \mathcal{B} \mathcal{S} \mathcal{C} \succeq \mathcal{C}$ .
- (iii) artin stactk ::  $\mathcal{X}$  とし、A が scheme である atlas ::  $a:A \to \mathcal{X}$  をとる.  $U \subseteq |\mathcal{X}|$  が (Zariski) open subset であるとは、 $|a|^{-1}(U)$  が |A| の open subset であること.

#### 定義 2.4

P を位相空間の性質 (e.g. irreducible, connected, quasi-compact, ...) とする. artin stack ::  $|\mathcal{X}|$  が P であるとは, $|\mathcal{X}|$  が P であるということ.

Q を位相空間の射の性質 (e.g. open, closed, dense, ...) とする. artin stack の射 ::  $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$  が Q であるとは,|f| が Q であるということ.

#### 補題 2.5

X :: scheme について,|X| は X の台位相空間と一致する. さらに scheme の射 :: f :  $X \to Y$  について,|f| は X と Y の間の台位相空間の射と一致する.

#### 補題 2.6

artin stactk ::  $\mathcal{X}$  について、 $|\mathcal{X}|$  の Zariski topology は atlas に関わらず一意である.

(証明). scheme から  $\mathcal{X}$  への smooth surjective morphism を二つとり、それらの fiber product を作る.

$$\begin{array}{c} W \longrightarrow U \\ \downarrow & \text{p.b.} \quad \downarrow^{u} \\ V \longrightarrow \mathcal{X} \end{array}$$

 $<sup>^{\</sup>dagger 2}$  例えば P= smooth, surjective, flat, locally finite presentation, universally open. [3] tag 01V4.

artin stack の定義から、W :: scheme. また smooth ならば universally open である ([3] 04XL) から、 $W \to U, W \to V$  は continuous, surjective, open. よって集合の間の射  $|W| \to |U|, |W| \to |V|$  も continuous, surjective, open.

なので以上の可換図式をたどれば、任意の  $O\subseteq |\mathcal{X}|$  について、 $|u|^{-1}(O)\subseteq |U|$  が open であることと  $|v|^{-1}(O)\subseteq |V|$  が open であることが同値であると分かる.これは  $|\mathcal{X}|$  の Zariski topology は atlas に関わらず一意であることを意味する.

# 2.3 Propositions

# 命題 2.7 ([3] 04XL)

- (i) artin stack 間の任意の射  $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$  について,  $|f|: |\mathcal{X}| \to |\mathcal{Y}|$  は continuous.
- (ii) algebraic space からの universally open 射 ::  $f: U \to \mathcal{X}$  に対して、|f| は continuous かつ open.

なお, smooth 射は flat and locally of finite presentation 射であり、したがって universally open である ([3] tag 01VE, 01VF, 01UA).

(証明). (i) は補題 (2.2) を用いれば容易に分かる.

#### 2.3.1 Surjectivity.

#### 補題 2.8

任意の artin stack ::  $\mathcal{X}$ ,  $\mathcal{Y}$ ,  $\mathcal{Z}$  について,

$$|\mathcal{Z} \times_{\mathcal{V}} \mathcal{X}| \to |\mathcal{Z}| \times_{|\mathcal{V}|} |\mathcal{X}|$$

は全射である.

#### 補題 2.9

 $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$  が全射であることと,  $|f|: |\mathcal{X}| \to |\mathcal{Y}|$  が全射であることは同値である.

#### 2.3.2 Open sub-stack maps to open subset bijectively.

#### 注意 2.10

artin stack の射にも "open immersion" であるものは存在するのだから、これを用いても open morphism などの概念が定義できる。この流儀での open morphism 等の概念と、我々の points of artin stack ::  $|\mathcal{X}|$  を使う流儀での open morphism 等の概念は同値なものである、ということを次の命題 (2.13) で示す。

points of artin stack を使うと、台集合を  $|\mathcal{X}|$  とする、通常の意味での位相空間が定義できる。その為、位相空間に関する概念を全て取り扱うことが出来る、というのが我々の流儀のアドバンテージである。

# 定義 2.11 ([3] 04YM)

artin stack ::  $\mathcal{X}$  の open sub-stack とは、 $\mathcal{X}$  の **strictly full** sub-category ::  $\mathcal{U}^{\dagger 3}$  で artin stack であるもの であってかつ  $\mathcal{X}$  への inclusion ::  $\mathcal{U} \to \mathcal{X}$  が open immersion であるもの.closed sub-stack も同様である.

 $<sup>^{\</sup>dagger 3}$  すなわち U は  $\mathcal{X}$  の全ての対象と同型射を含んでいる.

#### 注意 2.12

equivalence of artin stacks ::  $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$  があっても, open sub-stack of  $\mathcal{X}$  の f による像が strictly full sub-category であるとは限らないことに注意.

# 命題 **2.13** ([3] 06FJ, [2] Cor5.6.1)

- (i)  $\mathcal{U}$  が open sub-stack of  $\mathcal{X}$  ならば  $|\mathcal{U}|$  は  $|\mathcal{X}|$  の open sub-set.
- (ii) open sub-stack of  $\mathcal{X}$  の集まりからの対応  $\mathcal{U} \mapsto |\mathcal{U}|$  は一対一.

これらは closed についても同様である.

(証明). (TODO)

# 2.3.3 Topological Property of $|\mathcal{X}|$ .

命題 **2.14** ([2] 5.6.1(iii), 5.7.2)

atrin stack ::  $\mathcal{X}$  を考える. 位相空間  $|\mathcal{X}|$  について次が成り立つ.

- (i)  $|\mathcal{X}|$  :: quasi-compact.
- (ii)  $|\mathcal{X}|$  :: sober (すなわち, 任意の irreducible component はただ一つの generic point を持つ.)

命題 2.15 ([2] 5.7)

artin stack  $\mathcal{O}$  quasi-compact 射 ::  $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$  について,  $|f|(\mathcal{X})$  :: stable under specialization.

# 3 Sheaves on Algebraic Stacks

## 3.1 Definitions

# 定義 3.1

artin stack over  $S::\mathcal{X}$  について、 $\mathcal{X}$  上の big etale site  $:: \mathrm{ET}(\mathcal{X}) = (\mathbf{Sch}/\mathcal{X})_{\mathrm{ET}}$  を次のように定める.

**Objects** scheme から  $\mathcal{X}$  への(任意の)射.

Arrow 射  $[f: U \to \mathcal{X}] \to [g: V \to \mathcal{X}]$  は  $f = g \circ \phi$  を満たす scheme の射  $\phi: U \to V$ .

**Covering** scheme :: U からの射  $U \to \mathcal{X}$  の cover は、 $U \land \mathcal{O}$  etale 射が成す jointly surjective な族.

 $ET(\mathcal{X})$  の sheaf と associated topos は通常と同様に定義する.

## 注意 3.2

ここで定義した  $\mathrm{ET}(\mathcal{X})$  は [3] 06TN で定義されている  $\mathcal{X}_{\acute{e}tale}$  と同じものである。この Grothendieck topology が [3] で言う inherited topology([3] 06NV) であることは, $\mathcal{X}$  が category fibered in groupoids であり,したがって全ての射が cartesian arrow ([3] 02XJ で言う strongly cartesian morphism) であることから従う.

[3] 06TN では他に big Zariski site on  $\mathcal{X}$ , big smooth site on  $\mathcal{X}$  なども定義されているが、我々は etale site のみ考える.

#### 注意 3.3

歴史的には smooth morphism を underlying category にとり etale topology を備え付ける site, lisse-etale

site が使われている. これは etale cohomology の点で有利だが、artin stack の射から誘導される functor ::  $f^*, f^{-1}, f_*$  などが exact で無いといった不満点が有る. このせいで sheaves on scheme の時のアナロジーも働かなくなる. 定義も少々面倒なので、我々は big etale site を使う.

#### 定義 3.4

site :: S 上の sheaf :: F について, set of global sections を以下で定める.

$$\Gamma(\mathcal{S}, \mathcal{F}) = \operatorname{Hom}_{\mathbf{Sh}(\mathcal{S})}(*, \mathcal{F}).$$

ただし\*は category of sheaves of sets::  $\mathbf{Sh}(S)$ の terminal object である.

scheme :: U について,  $\Gamma(U, \mathcal{F})$  と  $\mathcal{F}(U)$  は異なるものであることに注意せよ.

#### 注意 3.5

category of sheaves of sets の terminal object は、単元集合の constact sheaf である. したがって terminal object として特に単元集合  $\{*\}$  の constant sheaf をとると、 $s \in \Gamma(\mathcal{F})$  は

$$S \ni U \mapsto s_U(*) \in \mathcal{F}(U)$$

という対応を成す. S は scheme 上の site であれば,  $\Gamma(\mathcal{F})$  の元が自然な方法で global section に一対一対応 する.

# 定義 3.6 ([3] 06TU)

 $\mathcal{X}$  の structure sheaf ::  $\mathcal{O}_{\mathcal{X}}$  を次で定める.

$$\mathrm{ET}(\mathcal{X})\ni U\mapsto \mathcal{O}_U(U).$$

 $\mathcal{O}_U$   $\forall$  scheme ::  $U \circ \text{structure sheaf } \vec{c}$   $\delta$ .

 $\mathcal{O}_{\mathcal{X}}$  が確かに sheaf であることは [3] 03DT で証明されている.

## 定義 3.7 ( $u^p$ , pu in [3] 00VC, 00XF)

artin stack over a scheme S ::  $\mathcal{X},\mathcal{Y}$  の間の射 ::  $f:\mathcal{X}\to\mathcal{Y}$  を考える. この f から topos の間の射 ::  $\mathcal{X}_{\mathrm{ET}}\to\mathcal{Y}_{\mathrm{ET}}$  が誘導される.

まず sheaf ::  $\mathcal{G} \in \mathcal{Y}_{ET}$  について,

$$(f^{-1}\mathcal{G})((U,u)) = \mathcal{G}((U,f \circ u))$$
 where  $(U,u) \in \mathrm{ET}(\mathcal{X})$ 

で  $f^{-1}G \in \mathcal{X}_{ET}$  を定める. 同じく, sheaf ::  $F \in \mathcal{X}_{ET}$  について,

$$(f_*\mathcal{F})((V,v)) = \lim \left(I_{(V,v)}^{\text{op}} \xrightarrow{\text{pr}_2} \mathbf{Sch}/V \xrightarrow{\mathcal{F}} \mathbf{Sets}\right) \text{ where } (V,v) \in \mathrm{ET}(\mathcal{Y})$$

で  $f_*\mathcal{F} \in \mathcal{Y}_{\mathrm{ET}}$  を定める.

ここで  $I_{(V,v)}$  は次の圏である.

**Objects:** 以下の可換図式を満たす射の組  $(U \to \mathcal{X}, U \to V)$ :

$$\begin{array}{c} U \longrightarrow V \\ \downarrow & \downarrow^v \\ \mathcal{X} \xrightarrow{f} \mathcal{Y} \end{array}$$

**Arrows:** 射  $(U \to \mathcal{X}, U \to V) \to (U' \to \mathcal{X}, U' \to V)$  は,以下を可換にする射  $U \to U'$  である.

$$U \downarrow \downarrow \downarrow \downarrow V \downarrow V \downarrow \downarrow V \downarrow V \downarrow \chi \longrightarrow_f \mathcal{Y}$$

 $(f_*\mathcal{G})(\ (V,v)\ )$  の定義に有る  $I^{\mathrm{op}}_{(V,v)} \xrightarrow{\mathrm{pr}_2} \mathbf{Sch}/V$  は

$$(U \to \mathcal{X}, U \to V) \mapsto [U \to V] \in \mathbf{Sch}/V$$

で与えられる.

# 3.2 Propositions

# 補題 3.8 ([3] 06NW)

artin stack ::  $\mathcal{X}, \mathcal{Y}$  と  $\mathcal{F} \in \mathrm{ET}(\mathcal{X}), \mathcal{G} \in \mathrm{ET}(\mathcal{Y})$  をとる. 任意の射  $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$  について  $f^{-1}\mathcal{F}, f_*\mathcal{G}$  は確かに sheaf である.

# 命題 3.9 ([3] 00XF)

 $f^{-1}$  if  $f_*$   $\mathcal{O}$  left adjoint functor  $\mathcal{C}$   $\mathfrak{d}$ 3.

(証明).  $(f\circ)$ :  $(\mathbf{Sch}/\mathcal{X}) \to (\mathbf{Sch}/\mathcal{Y})$  を  $f: \mathcal{X} \to \mathcal{Y}$  の合成で得られる関手とする. すると関手  $f^{-1}$  は関手  $(\mathbf{sheaf})$   $(\mathbf{Sch}/\mathcal{Y}) \to \mathbf{Sets}$  と  $(f\circ)$  の合成としてかける.

これを用いると上の定義は次のように変形できる.

$$(f_*\mathcal{F})(\ (V,v)\ ) = \lim \Big(((f\circ)\downarrow (V,v))_{\mathrm{et}}^{\mathrm{op}} \xrightarrow{\pi_1} (\mathbf{Sch}/\mathcal{Y}) \xrightarrow{\mathcal{F}} \mathbf{Sets}\Big)$$

 $((f\circ)\downarrow(V,v))^{\mathrm{op}}_{\mathrm{et}}$  は圏  $(f\circ)\downarrow(V,v)$  の双対圏に etale Grothendieck topology を与えてできる site である. また  $\pi_1\colon [(f\circ)(\ (U,u)\ )\to (V,v)]\mapsto (U,u)$ .

右辺は各点右 Kan 拡張  $(\operatorname{Ran}_{(f\circ)}\mathcal{F})(\ (V,v)\ )$  なので、Kan 拡張の一般論により随伴性が分かる.

# 命題 **3.10** ([3] 06WS)

artin stack over a scheme  $S::\mathcal{X},\mathcal{Y}$  を考える. 射  $::f:\mathcal{X}\to\mathcal{Y}$  と sheaf  $::\mathcal{F}\in\mathcal{X}_{\mathrm{ET}}$  について,

$$(f_*\mathcal{F})((V,v)) = \Gamma(\mathrm{ET}(V \times_{y,\mathcal{Y},f} \mathcal{X}), \mathrm{pr}_2^{-1} \mathcal{F}).$$

ただし  $\operatorname{pr}_2: V \times_{y,\mathcal{Y},f} \mathcal{X} \to \mathcal{X}$  は射影である.

(証明). 一般的な次の命題を用いる. 証明は省略する.

補題 3.11 (https://ncatlab.org/nlab/show/limit#limit\_of\_a\_setvalued\_functor)

site ::  $\mathcal{S}$  上の set-value sheaf ::  $\mathcal{F}$  を考える. この時,

$$\lim \big(\mathcal{S}^{\mathrm{op}} \xrightarrow{\mathcal{F}} \mathbf{Sets}\big) = \Gamma(\mathcal{S}, \mathcal{F}).$$

今,一つ前の命題と合わせて

$$(f_*\mathcal{F})(\ (V,v)\ ) = \lim \left( ((f \circ) \downarrow (V,v))_{\mathrm{et}}^{\mathrm{op}} \xrightarrow{\mathcal{F} \circ \pi_1} \mathbf{Sets} \right) = \Gamma(((f \circ) \downarrow (V,v))_{\mathrm{et}}, \mathcal{F} \circ \pi_1).$$

なので  $((f \circ) \downarrow (V, v))_{\text{et}}^{\text{op}} = \text{ET}(V \times_{y, \mathcal{Y}, f} \mathcal{X})$  と  $\mathcal{F} \circ \pi_1 = \text{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$  を確かめれば良い.

 $\blacksquare ((f \circ) \downarrow (V, v))_{\mathrm{et}}^{\mathrm{op}} = \mathrm{ET}(V \times_{y, \mathcal{Y}, f} \mathcal{X})$ . ET や op の部分は単に site として必要な部分なので,

$$(f \circ) \downarrow (V, v) = \mathbf{Sch}/(V \times_{y, \mathcal{Y}, f} \mathcal{X})$$

を示せば十分. 2-Yoneda embedding を用いて証明する.

対象から見ていく. 図式

$$\begin{array}{ccc}
U \longrightarrow V \\
\downarrow & \downarrow v \\
\mathcal{X} \longrightarrow \mathcal{Y}
\end{array}$$

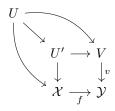
を図式 (\*) と呼ぶことにする. 圏  $(f \circ) \downarrow (V, v)$  の対象は

- 射  $U \to \mathcal{X} \xrightarrow{f} \mathcal{Y} \, \mathcal{V}$  と、
- 図式 (\*) を 2-可換にする射  $U \to V$

の組である. 一方,  $V \times_{\mathcal{V}} \mathcal{X}$  の対象  $(U, x, y, \alpha)$  の対象は 2-Yoneda embedding によって次のように対応する:

- $U \in \mathbf{Sch}/S$  がそのまま scheme :: U に,
- $x \in (\mathbf{Sch}/V)(U)$  が射  $U \to V$  に,
- $y \in \mathcal{X}(U)$  が射  $U \to \mathcal{X}$  に,
- $\alpha: v(x) \xrightarrow{\cong} f(y)$  の存在が図式 (\*) の 2-可換性に対応する.

射についても見ていく。 圏  $(f \circ) \downarrow (V, v)$  の射  $(U \to \mathcal{X} \to \mathcal{Y}, U \to V) \to (U' \to \mathcal{X} \to \mathcal{Y}, U' \to V)$  は,以下(の特に U を頂点とする二つの三角形)を 1-可換にする射  $U \to U'$  である.



 $V \times_{\mathcal{V}} \mathcal{X}$  の対象の射

$$(U \to U', \phi_V : x \to x', \phi_{\mathcal{X}} : y \to y')$$

は, それぞれ

- $U \rightarrow U'$  はそのまま  $U \rightarrow U'$  に,
- $\phi_V: x \to x'$  は U, U', V の可換な三角形に,
- $\phi_{\mathcal{X}}: y \to y'$  は U, U', V の可換な三角形に

対応する. これらの射が満たす条件は、二つの三角形の可換性と右下の四角形の 2-可換性とが整合的であることを意味している.

以上より, 所望の圏同値が得られた.

■ $\mathcal{F} \circ \pi_1 = \operatorname{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$ .  $\pi_1 \colon (f \circ) \downarrow (V, v) \to (\operatorname{\mathbf{Sch}}/\mathcal{X}), \operatorname{pr}_2 \colon V \times_{\mathcal{Y}} \mathcal{X} \to \mathcal{X}$  はそれぞれ次のように定義されている.

$$\pi_1 \colon [(f \circ)(\ (U, u)\ ) \to (V, v)] \mapsto (U, u \colon U \to \mathcal{X}), \quad \operatorname{pr}_2 \colon (U, x, y, \alpha) \mapsto y \colon U \to \mathcal{X}$$

よって  $\mathcal{F} \circ \pi_1 = \mathcal{F} \circ \operatorname{pr}_2 = \operatorname{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$ . な, $\mathcal{F} \circ \pi_1$  は関手の合成, $\operatorname{pr}_2^{-1} \mathcal{F}$  は関手  $\operatorname{pr}_2^{-1}$  による像であるが,結局同じものである.

#### 注意 3.12

lisse-etale site を採用する場合は, $f^{-1}$  は colimit として定義される ([2] section 12.5). これは [3] 00XF における  $u_p$  であるが, $f_*$  と adjoint ではない( $f^{-1}$   $\dashv$   $f_*$  は上で述べた).

# 参考文献

- [1] Robin Hartshorne. Algebraic Geometry (Graduate Texts in Mathematics. 52). Springer, 1st ed. 1977. corr. 8th printing 1997 edition, 4 1997.
- [2] G. Laumon and L. Moret-Bailly. *Champs algébriques*. Ergebnisse der Mathematik und ihrer Grenzgebiete. 3. Folge (A Series of Modern Surveys in Mathematics). Springer Berlin Heidelberg, 1999.
- [3] The Stacks Project Authors. Stacks Project. https://stacks.math.columbia.edu, 2019.